公益財団法人

宇部興産学術振興財団特別講演・第 54 回贈呈式

日時　2014 年 6 月 11 日　　場所　ANA クラウンプラザホテル宇部

1. 特別講演　明日の科学:「iPS 細胞の展開」

京都大学　iPS 細胞研究所　講師　バイオサイエンス博士　高橋　和利　先生

高橋先生は山中伸弥教授の一番弟子でノーベル医学・生理学受賞論文になった 2006 年の「マウスの iPS 細胞発見」の筆頭著者で実験を担当し、山中教授が「彼なしでは iPS 細胞の発見はなかった」と言わしめた功労者で、講演ではこれまでの研究とこれからの期待について非常に易しく説明戴いた。60 兆個の細胞で形成されるヒトの細胞はたったひとつの受精卵から生まれる。あらゆる細胞に分化しうる分化全能性を持つ受精卵から種々の細胞が生まれ、更に増殖と分化を繰り返して体が形成されるが、この分化全能性は受精卵のみが持っていると長年信じられていた。それに対して演者らのこれまでの研究で、受精卵を用いないで、単なる体細胞へ数種類の遺伝子を導入することで、分化多能性と増殖性を持つ iPS 細胞（人工多能性幹細胞）を簡便に作製出来ることを見出し、現在、実用化に向けて安全性、迅速性、低コスト化など様々な問題点に精力的に対応している様子が伺えた。これからの期待として、再生医療では拒絶反応のリスクを軽減して iPS 細胞由来の細胞を細胞移植治療に用いることが可能になると夢は膨らむ。演者がこの研究に携われて大きな喜びと考えるのは、今まで治療法がないと切り捨てられていた難病に対して、従来採取が困難であった組織の細胞を患者さん由来の iPS 細胞から作り出し、それを用いて病因・発症メカニズムの研究や薬剤の効果などを評価できることから創薬が可能になり、難病で苦しむ人々を救えるようになると確信できることであると心境を語った。

2. 第 54 回奨励賞贈呈式

受賞者の皆さん

後列左から

山田陽一（山大）、柳井亮二（山大）、藤田健一（京大）、太田康晴（山大）、若林里衣（九大）、堀江真行（鹿児島大）、佐古田幸美（山大）

前列左から

岩崎孝紀（阪大）、綿田裕孝（順天堂大）、植村選考委員長、田村代表理事、渡邊理事、田中一生（京大）、袴田昌高（京大）

贈呈式&交流会スナップ写真

贈呈式 ： 田村代表理事より各受賞者に贈呈

三分間スピーチ ：研究の思い、これからの展開を語る

交流会

渡邊忠淳氏：財団の歴史と父・剛二翁の思いを語る

田村代表理事

久保田宇部市長(下・左)